

漁況予報 いわし

第 1 1 7 号

2003年 5～6 月漁期
(2003年5月12日発行)

＝ 概況 ＝

【まいわし】

主要定置網における3月のマイワシ総漁獲量は3.7トンで、前年同期(7トン)の半分程度に、過去5年平均(29トン)の13%に留まりました。このうち6割は鎌倉地区での漁獲で、他地区では目立った漁獲はありませんでした。4月に入ると漁獲水準はさらに低下し、全体で600kg程度と前年同期(11トン)の5%、過去5年平均(24トン)の2.5%しか漁獲がありませんでした。

体長13～14cm台の中羽1歳魚(2002年級群)が主体となっています。

中型まき網は、まとまった大羽の来遊がなかったことから、前漁期に引き続き漁獲はありませんでした。

【かたくちいわし】

主要定置網における3月のカタクチイワシ総水揚げ量は、306トンで昨年同期(47トン)を大きく上回り、2年連続で前年同期を上回る結果となりました。体長11cm台をモードに12cm以上の大型成魚が多くを占め、資源高水準期に見られる沖合性の産卵群及び産卵後の群れの来遊が多く見られました。4月に入ると、1歳魚(2002年級群)が主体になってきましたが、昨年の春シラスでの出現が非常に少なかったことから解かるように、この年級群の資源豊度は低いので、漁獲量も30トン弱(速報値)と3月に比べて急激に落ちてきました。

佐島地区のまき網も、3月は前年を上回る漁獲量でしたが、4月に入り漁獲水準は落ちてきました。

【しらす】

3月11日に解禁した相模湾のシラス漁ですが、3月中は殆ど漁のないまま終漁しました。三浦地区で操業した一部の船も越冬ウルメシラス主体の漁が若干あっただけで、解禁日から2～3日間で終漁しました。4月に入り、徐々にシラスの来遊が見えるようになりましたが、初めのうちは全長20mm未満の小シラス主体で、網目から洩れることも多く漁獲量も伸びませんでした。8日に強い南風が吹いた後、10日に秋谷・腰越など一部地区で100kg/統前後の漁獲がありました。そして、13～15日は今漁期初めて全域で好漁となり、500kg/統/日前後のまとまった漁獲水準となりました。その後も漁は継続していますが、予想した程の漁にはなっていないようです。

サバ・カツオ等の胃には多くのシラスが含まれることから、湾外には相当のシラスがいると思われます。にもかかわらず、予想した程漁獲がなかった要因として低温化が考えられます。解禁日以降、黒潮系水の流入が弱く、相模湾内の水温は平年以下で推移し、例年以上に漁場内にコマセアミが多かったことからこの状況がうかがえます。このため、湾外からのシラスの補給が少なく、漁に結び付かなかったと思われます。

今後、沖からの暖水の流入が続けば、一気に好転すると考えられます。

＝ 予報 ＝

まいわし

今漁期は、中羽イワシ(2002年級群)が漁獲の主体となり、定置網主体に散発的に入網するものと思われます。

今漁期の漁獲量は、約3トンと予測されます。

* 縦軸：主要定置網+まき網

かたくちいわし

今漁期は、小型成魚が漁獲の主体となります。

昨年の春シラス漁が不漁だったことから、春生まれの1歳魚の資源量は少ないと思われます。したがって、今漁期は昨年同期を下回るでしょう。

今漁期の漁獲量は、約500トンと予測されます。

しらす

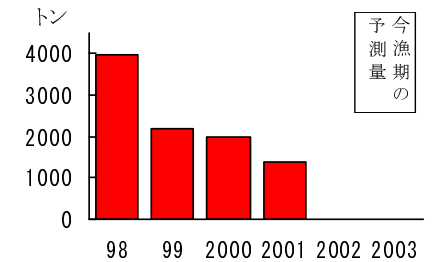
今漁期は4～5月生まれのカタクチシラスが漁獲の主体となります。

親魚の資源量は、昨年より多いことから、シラスの漁獲量も昨年を上回ることが期待できます。

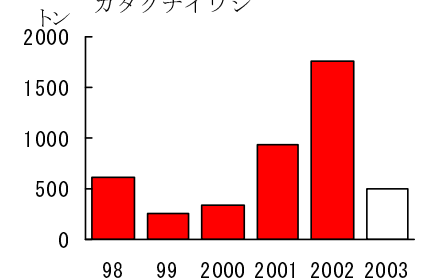
今漁期の漁獲量は、約210トンと予測されます。

過去5年の5・6月漁期の漁獲量
と今漁期の予測量

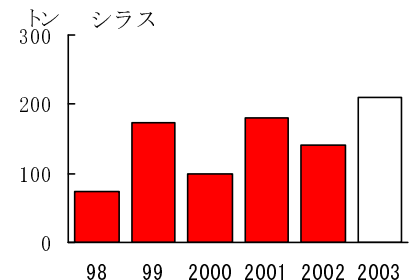
マイワシ



カタクチイワシ



シラス



神奈川県水産総合研究所 資源環境部
三浦市三崎町城ヶ島 (046)882-2313